

## 「社員を大切に」の経営が業界トップシェアと海外展開の成功を支える

(株式会社南武)

株式会社南武は、独自の「南武規格」をもつ特殊油圧シリンダメーカー。主に自動車エンジン製作向けに用いられるダイカスト金型用シリンダは国内シェア7割以上、製鉄用ロータリーシリンダでは世界シェアの7割を誇る。現社長の就任以降16年間、リーマンショック時を除き黒字基調が続くなど、業界のトップを走っている。

### 「海外進出＝国内の空洞化」ではない

他の追随を許さない高い技術力や業界での圧倒的なシェア、研究開発へのたゆまない努力から生まれた数多くの特許保有、各種の受賞歴など、同社を表す言葉は枚挙にいとまがない。

その南武を語る上で欠かせない特徴の一つが、積極的な海外展開である。2001年の米国企業との技術供与契約締結を皮切りに、2002年にタイ進出、2006年には大田区が同国に開設したオオタ・テクノ・パークに第1号企業として入所した。また、2010年には中国に現地工場を開設、さらに2012年3月にはタイに新たな工場を開設予定である。

多くの中小企業にとって海外進出はハードルが高いとも言われる中で、同社海外拠点の業績は好調である。さらに同社では「海外進出＝国内の空洞化」は当たらないという。黒字基調を維持しているのは、国内拠点をもちつつ海外工場(法人)の支えがあるためとのこと。

### 海外展開成功の秘訣は、現地人材の定着にあり

こうした海外進出の成功は、「世界中へ製品を供給できないメーカーは生き残れない」という社長のリーダーシップや、同社の確かな技術力と高品質に裏打ちされたものであることは言うまでもない。また、メッキや熱処理、鍛造などのサポーティングインダストリーに囲まれた立地や、羽田空港に近いという東京ならではの強みも要因の一つと言える。さらにそれらに加え、現地法人を支える人材を定着させるための同社ならではの工夫があった。

タイは言うまでもなく暑い。そこで工場に冷房を設置した。これが従業員にとっても好評なのだという。さらに、スポーツ大会やパーティなどを通じた従業員間の交流も欠かさない。こうした社員を大切にする、また現地に大幅な権限を与える姿勢が定着率の向上につながり、引いては堅調な業績をもたらしている。

### 「若い人や女性が居つくような会社にすれば会社は伸びる」

この社風は、社長である野村氏のポリシーが体現されたものにほかならない。野村社長は商社での勤務経験から、特に女性従業員の存在が大事だと考え、女子高から女性技能工を採用。「ドリル・ガールズ」とも呼ばれる彼女たちは、各種マスコミで脚光を浴びている。また、リーマンショックの影響で赤字を計上した際、社長の信念から社員のリストラを行わず、そのことが「クイックリカバリー(早期回復)につながった。」という。こうしたエピソードにも、社員を大切にする姿勢を見ることができる。

この他にも、オリジナルの「南武カレンダー」による長期休暇取得の促進や社員旅行(社長のポケットマネーでの実施も!)、全工場へのエアコン完備など、社員の定着につながる様々な工夫がなされている。整備された快適な労働環境と、社員が大切にされるアットホームな社風の下で、南武のグローバル規模の快進撃はしばらく続くのだろう。

#### 会社概要

社名：株式会社南武  
創業：1941(昭和16)年  
(会社設立1965年)  
資本金：5,800万円  
従業員数：(国内)110名、  
(タイ)55～60名、  
(中国)30～35名  
事業内容：特殊油圧シリンダの  
製造・販売  
事業所：本社(大田区)、工場  
(浜松市、タイ、中国)



海外の事業所 上：タイ【NAMBU CYL (THAILAND) CO.LTD】  
下：中国【南武油缸(常州)有限公司】と工場内

